

# 目次

目次	1
1.1 ご使用前の感謝状	4
1.2 当マニュアルの特色	5
1.3 安全上の情報	5
第2章 マザーボードの紹介	6
2.1 マザーボードの外見は？	6
2.2 仕様	7
2.3 構成図	8
第3章 ハードウェア・インストール	9
3.1 クイック・インストールの手順	9
3.2 インストールのために知っておくべきこと	10
CPUをインストールする	10
CPUクーラーをインストールする	11
CPUとシステムファンを接続する	12
メモリーモジュールをインストールする	13
デュアルチャネルのパフォーマンスを最大化する	14
IDEとフロッピーケーブルを接続する	15
フロントパネルケーブルに接続する	16
ATX電源ケーブルを接続する	17
3.3 他のインストール参照情報	18
CPU電圧とクロック数の設定	18
シリアル ATA IIを接続する	19
ハードディスクの設定を調整する	20
PCI Express x 16グラフィックススロットに接続する	22
PCI Express x 1 スロットに接続する	23
IrDAに接続する	24
ゲームポートに接続する	25



Gigabit LANをサポート .....	26
USB2.0に接続する .....	27
1394に接続する.....	28
スーパー7.1チャンネルオーディオ効果 .....	29
フロントオーディオに接続する.....	30
CD_INに接続する.....	31
COM2 (i945Ga-PLF用のみ)に接続する.....	32
Case Openに接続する.....	33
S/PDIF (Sony/Philips デジタルインターフェイス)を接続する.....	34
色分けされた後部パネル (i945Ga-PLF用) .....	35
色分けされた後部パネル (i945Pa-PLF用).....	36
LED表示.....	37
3.4 ジャンパー設定.....	38
<b>第4章 特別な機能とユーティリティー .....</b>	<b>39</b>
4.1 他の便利な機能.....	39
<b>第5章 BIOSを設定する .....</b>	<b>40</b>
5.1 紹介.....	40
5.2 Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方 .....	41
5.3 BIOS設定への入り方 .....	41
5.4 Power Masterの定義 .....	42
Automaticモード (自動モード) .....	43
Performanceモード (パフォーマンス・モード) .....	43
Silentモード (サイレント・モード) .....	44
Normalモード (通常モード) .....	44
5.5 Windows環境下でのBIOSアップグレード.....	45
5.6 Vivid BIOSテクノロジー .....	47
<b>第6章 ドライバーをインストールする .....</b>	<b>48</b>
6.1 ドライバーをインストールする .....	49
6.2 ユーティリティーをインストールする .....	50

第7章	トラブルシューティング .....	51
-----	-------------------	----

第8章	テクニカルサポート .....	52
-----	-----------------	----

型式名とBIOSバージョン .....	53
---------------------	----

お買い上げのマザーボードの登録 .....	53
-----------------------	----

テクニカルサポート .....	54
-----------------	----

## 1.1 ご使用前の感謝状

まず初めに、AOpen製品をご購入くださり厚くお礼を申し上げます。当マザーボードは皆様のあらゆるニーズに合うよう、私たちの持つ優秀な設計能力を駆使し、品質のために尽力を傾け設計されました。

このマニュアルは当マザーボードのインストールの仕方を紹介しています。今後の参考として保管してください。印刷されたマニュアルをなくされた場合は、最新のファイルをダウンロードするためにウェブサイト<http://www.aopen.com>にアクセスしてください。

それでは、このユーザーフレンドリーなマニュアルとAOpenが提供するパワフルな機能のすべてを個人的に経験なさるようお招きいたします。

AdobeとAcrobatのロゴはAdobe Systems Incorporatedの登録商標です。

AMD, AthlonそしてDuronのロゴはAdvanced Micro Devices, Inc.の登録商標です。

Intel, Intel Celeron, Pentium II, III, Pentium 4そしてPentium MareのロゴはIntel Corporationの登録商標です。

nVidiaのロゴはnVidia Corporationの登録商標です。

Microsoft, Windowsのロゴはアメリカ及び他の国々におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

当マニュアルで言及されている製品のタイトルや商標は解説上の便宜を目的としており、それぞれの企業によって所有されています。

使用上の標準やそれに関連する情報に関わる変更について提供できないことを遺憾に思います。AOpenは当マニュアルの内容について変更や修正を加える権利を留保しています。商品に関わる点も含むいかなる誤記について、AOpenは保証や義務を負うものではありません。

当文書は会社を保護し全ての権利を留保するための著作権法に基いています。

AOpenからの正式な文書での許可がない限り、どのような状況であれ、本冊子をいかなる種類に複製することも、データベースや媒体に取り込むことも許されていません。

1996-2005 Copyrights, AOpen Ltd. 版權所有。

## 1.2 当マニュアルの特色

当マザーボードの便利な情報や知っておくべき特定の状況を把握するために、以下のアイコンがしばしば出てきます：



組み立ての過程で知っておくべき知識や役立つヒントを含んでいます。



このマークを見たら注意して下さい。組み立て中によく起きるミスや注意すべき点を強調しています。



このヒントはインストールをスムーズに行うために役に立つ情報を教えてくれます。

## 1.3 安全上の情報



コンポーネントを扱う前に、リストストラップを着用しユニットの金属部分に触れてください。別の方法としては、アースされた物体に触れるか、その金属面に触れてください。



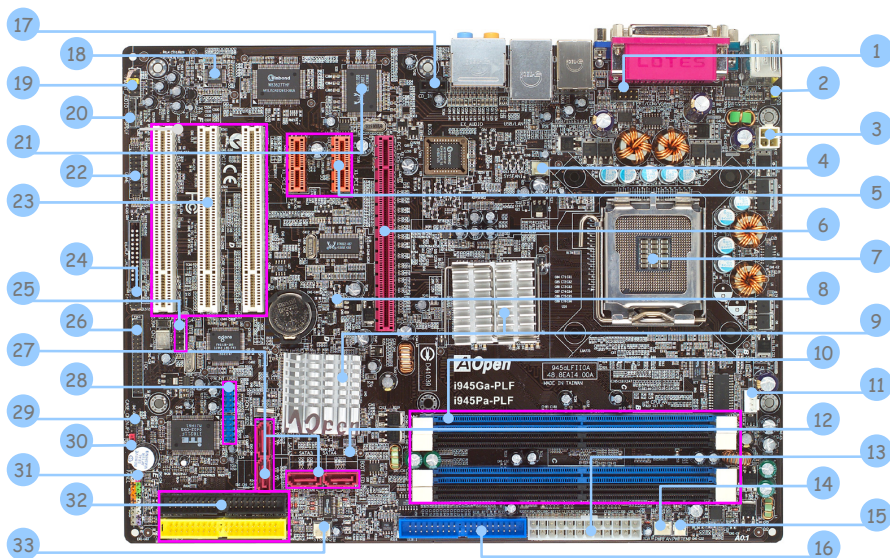
ジャンパー設定の前には常に電源を抜いてください。



マザーボード上のコンポーネントをインストールしたり外したりする前には、最初に電源を外し、マザーボードや他のコンポーネントにダメージを与えないようにして下さい。

## 第2章 本マザーボードの紹介

### 2.1 マザーボードの外見は？



- |   |                            |
|---|----------------------------|
| 1. COM2コネクタ (i945Ga-PLFのみ)  | 18. Realtek AC'97 CODEC    |
| 2. JP28 PS2 KB/マウスウェイクアップジャンパ                                       | 19. フロントオーディオコネクタ          |
| 3. 4ピン 12V ATX 電源コネクタ   | 20. S/PDIFコネクタ             |
| 4. SYSFAN1コネクタ  | 21. Realtek Gigabit LANチップ |
| 5. PCI Express x1 スロット X 2  | 22. ゲームポート                 |
| 6. PCI Express x16 グラフィックススロット                                      | 23. 32ビット PCI 拡張スロット x 3   |
| 7. Intel FC-LGA4 CPU をサポートするLGA775 CPU ソケット                         | 24. IrDAコネクタ               |
| 8. STBY LED   | 25. IEEE 1394コネクタ X 1      |
| 9. Intel 945G / ICH7 (i945Ga-PLF)<br>Intel 945P / ICH7 (i945Pa-PLF) | 26. FDDコネクタ                |
| 10. 240ピン DDR II DIMMs x 4  | 27. シリアルATA IIコネクタ x 4     |
| 11. CPU FANコネクタ   | 28. USB 2.0コネクタ x 2        |
| 12. BOOT LED  | 29. Case Openコネクタ          |
| 13. ATX電源コネクタ   | 30. JP14 CMOSデータクリアジャンパ    |
| 14. PWRFANコネクタ  | 31. フロントパネルコネクタ            |
| 15. 電源温度コネクタ  | 32. ATA133コネクタ             |
| 16. ATA100コネクタ  | 33. SYSFAN2コネクタ            |
| 17. CD_INコネクタ   |                            |

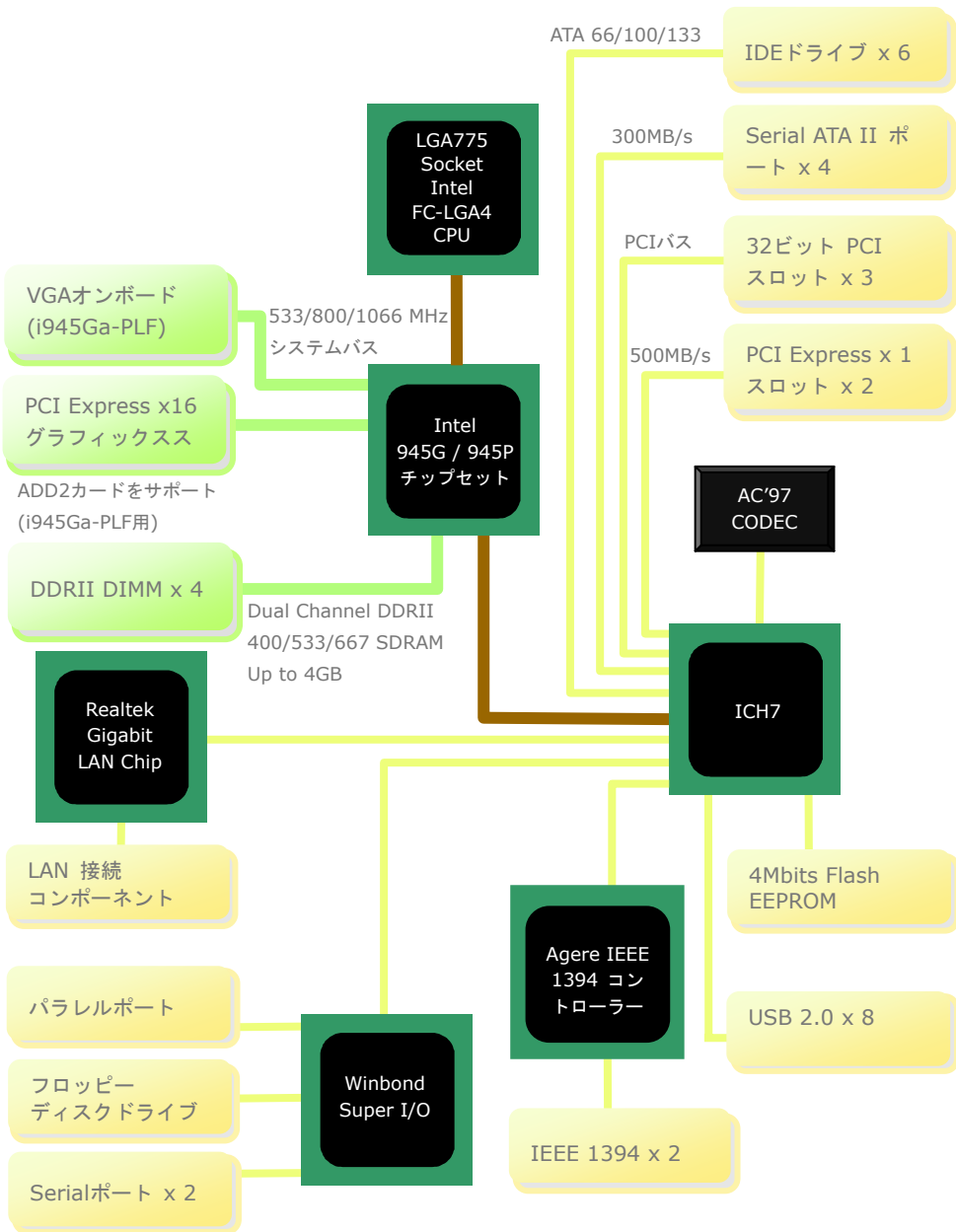
## 2.2 仕様

お手持ちのマザーボードの主要な機能です。

型式	i945Ga-PLF	i945Pa-PLF
CPU	Intel FC-LGA4 CPU Socket T 533/800/1066MHz	Intel FC-LGA4 CPU Socket T 533/800/1066MHz
チップセット	Intel 945G/ICH7	Intel 945P/ICH7
メインメモリー	Dual Channel Mode DDRII DDRII 400/533/667 DDR DIMM x 4 DIMM タイプ : 128/256/512MB & 1GB 最大メモリー : 4GB	Dual Channel Mode DDRII DDRII 400/533/667 DDR DIMM x 4 DIMM タイプ : 128/256/512MB & 1GB 最大メモリー : 4GB
グラフィックス	チップセットに一体型のVGAエンジン PCI Express x 16 グラフィックススロット ADD2カードをサポート	PCI Express x 16 グラフィックススロット
IDE	一体型のATA100とSerial ATA II コントローラー ITE 拡張IDE ATA133コントロールチップ 最大ディスク : 144,000,000GB [48ビット LBA仕様による]	一体型のATA100とSerial ATA II コントローラー ITE 拡張IDE ATA133コントロールチップ 最大ディスク : 144,000,000GB [48ビット LBA仕様による]
LAN	Realtek Gigabit PCI LANチップ	Realtek Gigabit PCI LANチップ
サウンド	Intel高精度オーディオオンボード 7.1チャンネル以上をサポート	Intel 高精度オーディオオンボード 7.1チャンネル以上をサポート
USB	チップセットに一体型, USB 2.0 x 8	チップセットに一体型, USB 2.0 x 8
IEEE 1394	Agere 1394 コントロールチップ	Agere 1394 コントロールチップ
スロット	PCI Express x 1 スロット x 2 PCI Express x 16 グラフィックススロット x 1, PCI スロット x 3	PCI Express x 1 スロット x 2 PCI Express x 16 グラフィックススロット x 1, PCI スロット x 3
後部パネル I/O	PS/2 キーボード x 1, PS/2 マウス x 1 USB ポート x 4, LAN ポート x 1 VGA ポート x 1, COM ポート x 1 プリンターポート x 1, IEEE 1394 x 1 スピーカー出力 x 1, ライン入力 x 1 マイク入力 x 1, 側面 SUR x 1 後部 SUR x 1, 中央/サブウーハー x 1	PS/2 キーボード x 1, PS/2 マウス x 1 USB ポート x 4, LAN ポート x 1 COM ポート x 2 プリンターポート x 1, IEEE 1394 x 1 スピーカー出力 x 1, ライン入力 x 1 マイク入力 x 1, 側面 SUR x 1 後部 SUR x 1, 中央/サブウーハー x 1
オンボードコネクタ	フロッピードライブコネクタ x 1 IDE チャンネル: ATA100 x 1 IDE チャンネル: ATA133 x 2 Serial ATA II チャンネル x 4 フロントパネル x 1 フロントオーディオ x 1 CPU FAN x 1 システムFAN x 2, 電源FAN x 1 電源温度コネクタ x 1 Case Openコネクタ x 1 CD_IN x 1, IrDA x 1, S/PDIF x 1 COM2 x 1 ゲームポートコネクタ x 1 IEEE 1394 x 2, USB2.0コネクタ x 2	フロッピードライブコネクタ x 1 IDE チャンネル: ATA100 x 1 IDE チャンネル: ATA133 x 2 Serial ATA II チャンネル x 4 フロントパネル x 1 フロントオーディオ x 1 CPU FAN x 1 システムFAN x 2, 電源FAN x 1, 電源温度コネクタ x 1 Case Openコネクタ x 1 CD_IN x 1, IrDA x 1, S/PDIF x 1 ゲームポートコネクタ x 1 IEEE 1394 x 2 USB2.0コネクタ x 2
BIOS	Award PnP 4Mb Flash ROM BIOS	Award PnP 4Mb Flash ROM BIOS
ボードサイズ	305 mm x 230 mm	305 mm x 230 mm



## 2.3 構成図





# 第3章 ハードウェア・インストール

## 3.1 クイック・インストールの手順



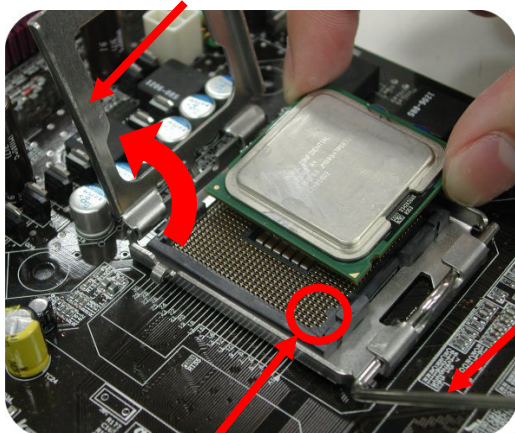
## 3.2 インストールのために知っておくべきこと

### CPUをインストールする

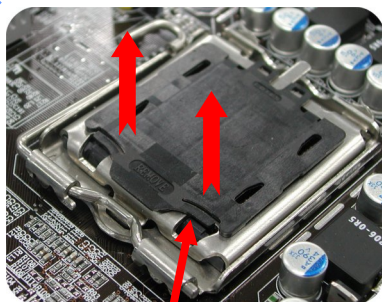
このソケットはIntelが開発した最新のCPUパッケージであるFC-LGA4 CPU をサポートしています。他の形状のCPUパッケージは納まりません。

1. CPUソケットレバーを引き上げ、プレートを持ち上げる。
2. CPUソケットプレートからプラスチックキャップを外す。
3. ソケットの1番ピンを確かめ、CPU上部にある金色の矢印を探す。1番ピンと金色の矢印を合わせる。次にCPUをソケットに差し込む。
4. CPUソケットプレートとレバーを押し込み、CPUのインストールは完了。

CPUソケットプレート



ソケット1番ピン



プラスチックキャップ

CPUソケット  
レバー

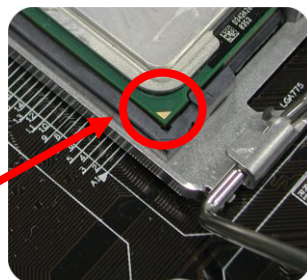


**警告**：CPUソケットの1番ピンとCPUの金色の矢印が合わない場合は、CPUが破損するかもしれません。CPUをインストールしている時に、CPUソケットピンに触れないで下さい。



**メモ**：Prescott CPUから発生する過熱を回避するために、適切にサーマルペストを使用するようIntelは強く勧めています。

金色の  
矢印

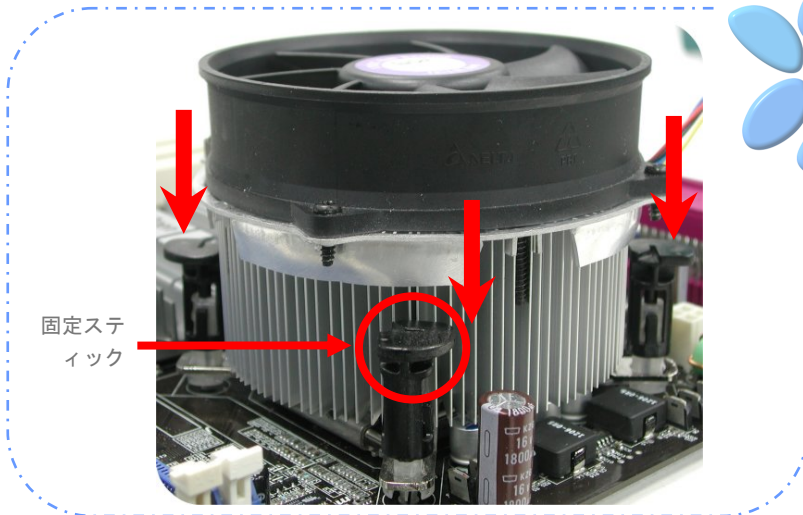


## CPUクーラーをインストールする

1. CPUソケット上の4つの取り付け穴に、正確に4本のスティックでCPUファンを優しく押し込んでください。



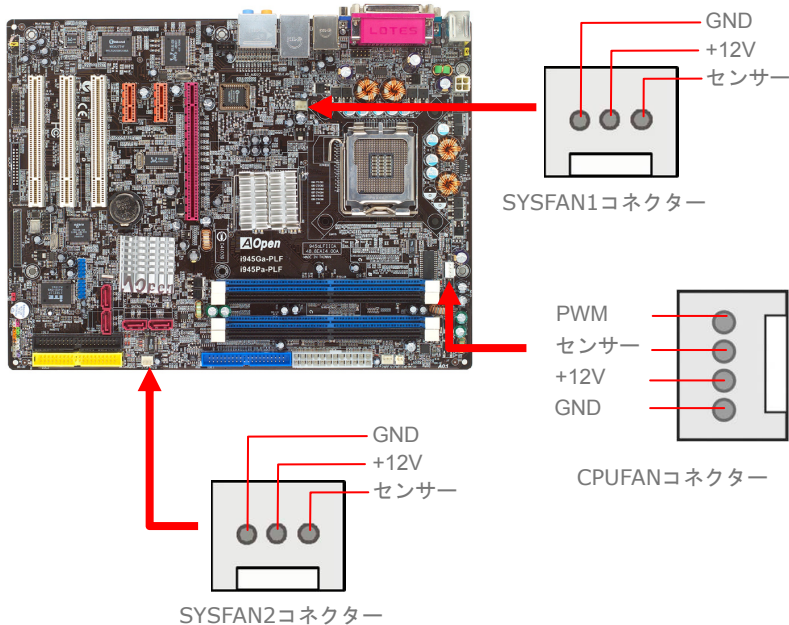
2. 一つずつ、穴に4つの固定スティックを押し込んでください。スティックが穴にしっかりと固定されていることを確認してください。



メモ：上の写真のものは購入されたものと形状が異なるかもしれません。

## CPUとシステムファンを接続する

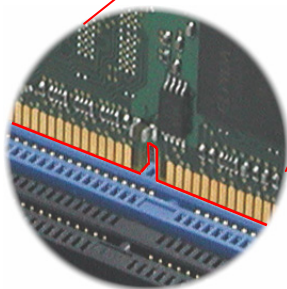
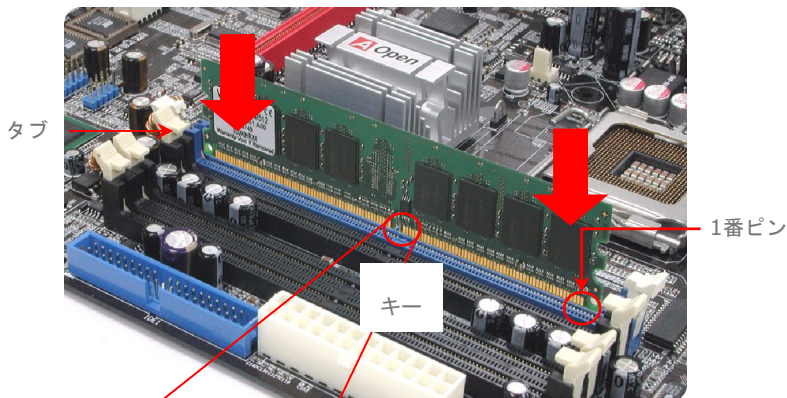
CPUファンケーブルを4ピンCPUFANコネクタに接続します。もしケースにファンがあれば、SYSFAN1かSYSFAN2コネクタに接続できます。



**メモ** : CPUファンの中にはセンサーがないものがあるので、その場合にはファンのモニターをサポートできません。

## メモリーモジュールをインストールする

区別がしやすいように、DIMM スロットは黒色とネイビーブルーに設計されています。モジュールを両手でまっすぐに DIMMスロットに挿入し、DIMMモジュールがしっかりと固定されるまで押し込んでください。



メモ: DIMMスロットのタブはDIMMがスロットの底部に接触したときに、DIMMを固定するために持ち上がります。



## デュアルチャネルのパフォーマンスを最大化する

デュアルチャネルのパフォーマンスを最大にするには、DIMMの規格値が下記の条件を満たしている必要があります。

### 各チャネルのDIMM規格値の一致

- 同一のデンシティ (128MB~1GB)  
同一のデンシティのメモリーモジュールをチャネル1(DIMM1とDIMM3)およびチャネル2 (DIMM2とDIMM4)に挿入している限り、デュアルチャネルモードがオンになります。  
DIMM1 + DIMM3 = DIMM2 + DIMM4  
例: 1GBメモリーモジュールをDIMM1とDIMM3に挿入する場合、DIMM2 + DIMM4 = 1GBである時にデュアルチャネルモードがオンになります。
- 同一のDRAMバス幅(x8 あるいは x16)
- 片面または両面のいずれか



**メモ:**異なるチップのメモリーモジュールの使用により、システムが不安定になる場合があります。

デュアルチャネルモードが上手く有効になると、POST画面の間に、“Dual Channel Mode Enabled”が画面に表示されます。

```
Phoenix - AwardBIOS v6.00PG, An Energy Star Ally
Copyright (C) 2003, Phoenix Technologies, LTD

Feb.02.2004 AOpen Inc.

Main Processor : Intel Pentium(R) 4 2.80GHz(200x14.0)
Memory Testing : 1048576K OK
CPU Brand Name : Intel(R) Pentium(R) 4 CPU 2.80GHz

Dual Channel Mode Enabled
CPU Frequency Technology Enabled
CPU Frequency / Setting          Default / Setting
CPU          200MHz / 200MHz      1.525V / 1.525V
DRAM         400MHz / 400MHz      AUTO / AUTO
AGP          66.67MHz / 66.67MHz    1.50 V / 1.50 V
PCI          33.33MHz / 33.33MHz    3.30 V / 3.30 V
IDE Channel 0 Master : WDC WD300AB-00CDB0 22.04A22
IDE Channel 0 Slave : None
IDE Channel 1 Master : None
IDE Channel 1 Slave : None
```

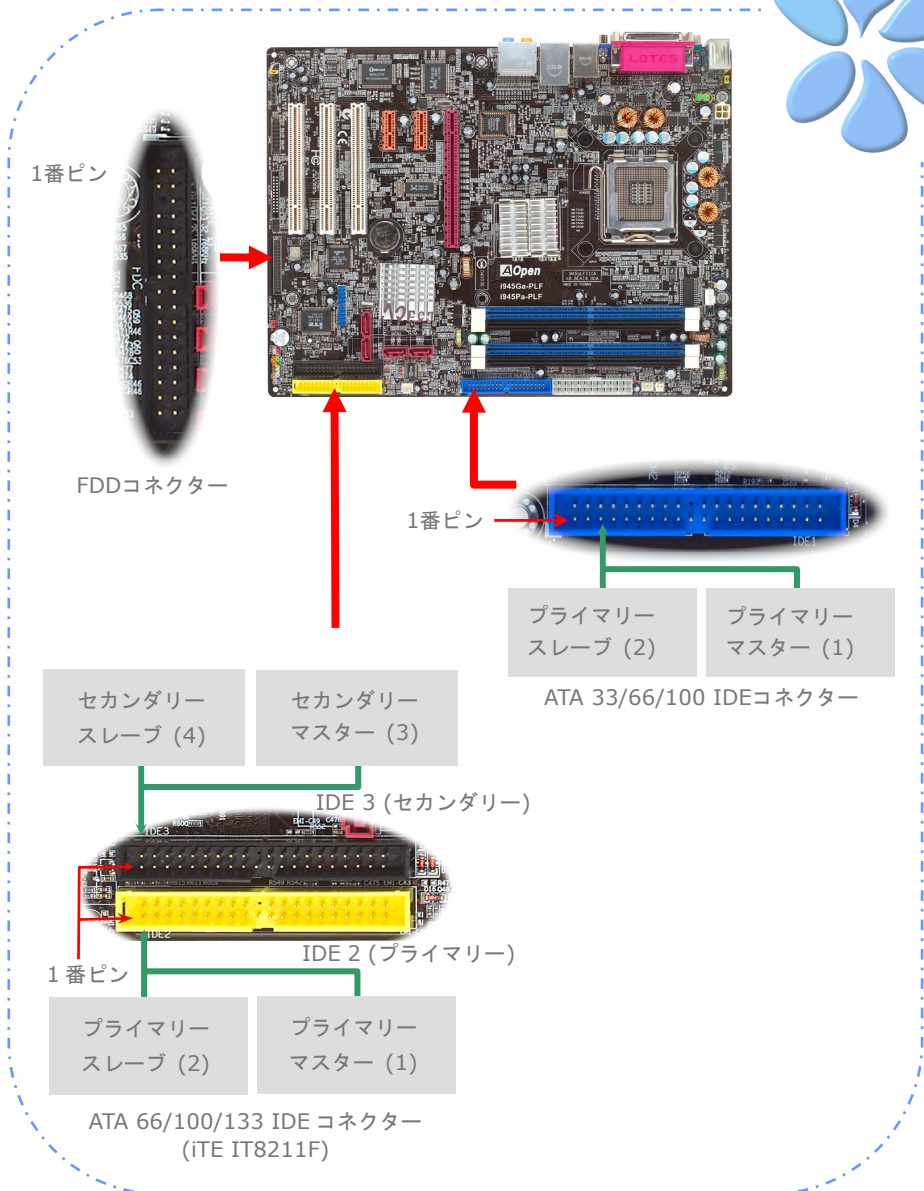


<http://www.aopen.com.tw>

Press DEL to enter SETUP  
02/02/2004-Springdale-G-6A79AAB9C-00

## IDEとフロッピーケーブルを接続する

34ピンのフロッピーケーブルと40ピンか80ワイヤーIDEケーブルをフロッピーコネクタ  
ーとIDEコネクタに接続します。1番ピンの向きに注意してください。向きを間違えると  
システム損傷の原因になります。



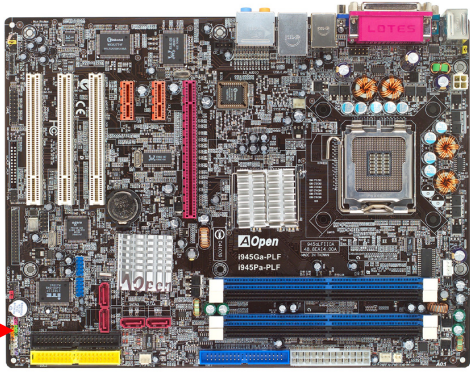
## フロントパネルケーブルに接続する

電源LED、スピーカー、リセットスイッチコネクタを対応するピンに取り付けます。BIOS設定の“サスペンドモード”の項目を有効にすると、システムが“サスペンドモード”になっている間、ACPI & Power LEDが点滅します。

ATXケースの電源スイッチケーブルを確認してください。ケースの前面パネルの2ピンのメスのコネクタです。このコネクタをSPWRと記されたソフトパワースイッチコネクタに接続します。



1		
NC	○	Power Switch
NC	○	GND
+5V	○	Power LED-
HDD LED	○	GND
HDD LED	○	Power LED+
+5V	○	NC
+5V	○	GND
GND	○	GND
NC	○	RESET
SPEAKER	○	GND

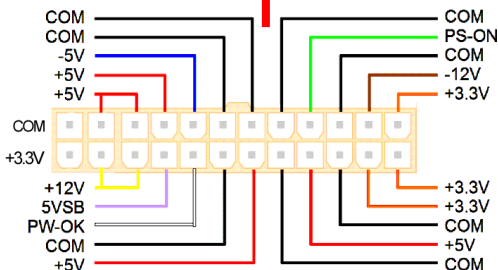
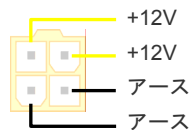
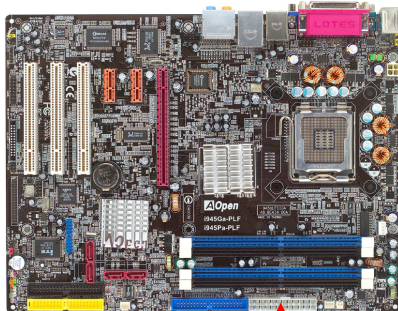


フロントパネルコネクタ

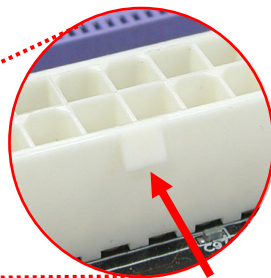
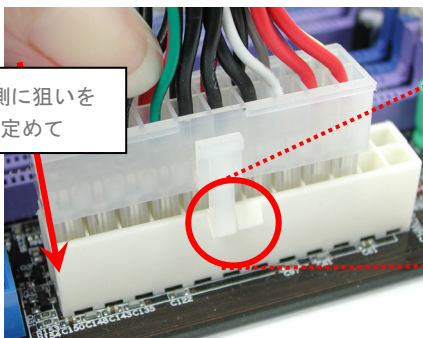


## ATX電源ケーブルを接続する

当マザーボードには下に示されているように、24ピンと4ピンのATX電源コネクタがあります。正しい向きで差し込んでください。24ピンコネクタを差し込む前に4ピンコネクタを差し込んでおかれるよう強くお勧めします。



**メモ**：図示されているように、ミス防止設計の側を手前に向けて、電源プラグをATXコネクタの**左側**に合わせてください。



## 3.3 他のインストレーション参照情報

### CPU電圧とクロック数の設定

#### CPUコア電圧の設定

当マザーボードは電源オン時にCPU電圧を自動的に検出する電圧ID (VID)機能をサポートしています。そのためCPUコア電圧の設定は不要です。

#### CPUクロック数の設定

当マザーボードはCPUジャンパレス設計で、CPUクロック設定はBIOSの中で1MHzずつのCPUオーバークロック機能を通して行います。**CPUコアクロック = CPU FSBクロック x CPU レシオ**。ただし、現在市場に流通するCPUは"倍率固定"、すなわちユーザーによるCPUレシオは調節不可能で、オーバークロックにはCPU FSBクロックのみが調節可能です。

### BIOS 設定 > クロック / 電圧制御 > CPU スピード設定

**(オーバークロックは自己責任の元行って頂きますようお願い致します!!)**

CPU レシオ	8x, 10x... 24x, 25x, 26x, 27x, 28x
CPU FSB (マニュアル調整)	FSB = 100MHz-250MHz, 1MHzずつのCPUオーバークロックによる

プロセッサ 番号	プロセッサ クロック	FSB	CPU レシオ	キャッシュ
<b>Extreme Edition プロセッサ</b>				
-	3.73G	1066MHz	14x	2MB L2
<b>8 シリーズ</b>				
840	3.20G	800MHz	16x	2 x 1MB L2
830	3.00G	800MHz	15x	2 x 1MB L2
820	2.80G	800MHz	14x	2 x 1MB L2
<b>6 シリーズ</b>				
670	3.80G	800MHz	19x	2MB L2
660	3.60G	800MHz	18x	2MB L2
650	3.40G	800MHz	17x	2MB L2
640	3.20G	800MHz	16x	2MB L2
630	3.00G	800MHz	15x	2MB L2
<b>5 シリーズ</b>				
570	3.80G	800MHz	19x	1MB L2
560	3.60G	800MHz	18x	1MB L2
550	3.40G	800MHz	17x	1MB L2
540	3.20G	800MHz	16x	1MB L2
530	3.00G	800MHz	15x	1MB L2
520	2.80G	800MHz	14x	1MB L2
<b>3 シリーズ</b>				
355	3.33G	533MHz	25x	256K L2
350	3.20G	533MHz	24x	256K L2
345	3.06G	533MHz	23x	256K L2
340	2.93G	533MHz	22x	256K L2
335	2.80G	533MHz	21x	256K L2
330	2.66G	533MHz	20x	256K L2

メモ：CPUのスピードは急速に変化するため、このインストレーション・ガイドを手にする時点ではより高速のCPUがあるかもしれません。この表は参照のためです。



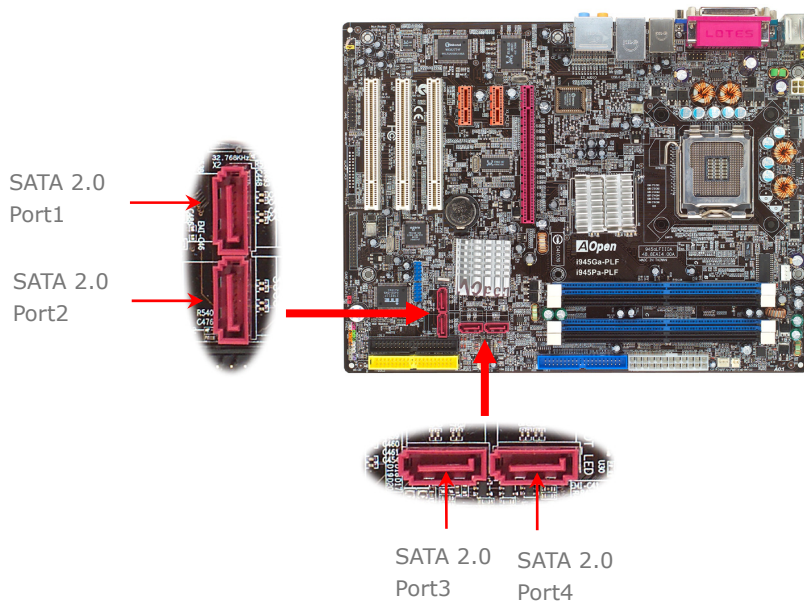
**警告: Intel 945G / 945Pチップセットは最大1066MHz (266MHz\*4) システムをサポートしています。クロック設定を高くすると深刻なシステム損傷を起こすかもしれません。**



**メモ：CPUファンの中にはセンサーがないものがあるので、その場合にはファンのモニターをサポートできません。**

## シリアル ATA IIを接続する

シリアル ATA II ディスクを接続するために、7ピンのシリアル ATA II ケーブルが必要です。シリアル ATA II ケーブルの両端をマザーボード上のシリアル ATA II ヘッダーとディスクに接続します。他の従来のディスクのように、電源ケーブルも接続します。ジャンパーレスであることに注意してください。マスターかスレーブディスクを定義するためにジャンパーを設定する必要はありません。シリアル ATA II ハードディスクをシリアル ATA II ポートにインストールするときは、自動的にポート0(SATA1)に接続する方が最初に起動するブートデバイスになります。ホットプラグ機能をサポートしていないことに注意してください。



## ハードディスクの設定を調整する

オリジナルの1セットの平行IDEを除いて、当マザーボードは最新のシリアルATAハードディスクをサポートしています。インストールをした後で、最新のインストールしたばかりのシリアルATAハードディスクがOS上に見つからないなら、BIOS設定に問題があるかもしれません。正しく機能するようにBIOS設定を調整できます。

ハードディスクを正しくインストールした後で、調整用のBIOS設定画面に進んでください。好みのモードを選択するために「Integrated Peripherals → OnChip IDE Device → On-Chip Serial ATA」の順に押してください。オリジナル設定の変更を希望されないのであれば、設定値は自動になっています。

The screenshot shows the Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility interface. The main menu is as follows:

- Standard CMOS Features
- Advanced BIOS Features
- Advanced Chipset Features
- Integrated Peripherals**
- Load Setup Defaults
- Load Turbo Defaults
- Set Password
- Save & Exit Setup

The 'Integrated Peripherals' menu is expanded to show:

- Po Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility Integrated Peripherals
- Pn OnChip IDE Device **Press Enter**
- Si SuperIO Device **Press Enter**
- Fr USB Controller Enabled
- USB 2.0 Controller Enabled
- USB Keyboard Support Auto
- Onboard Audio Codec Enabled
- Onboard LAN Control Enabled

The 'OnChip IDE Device' menu is expanded to show:

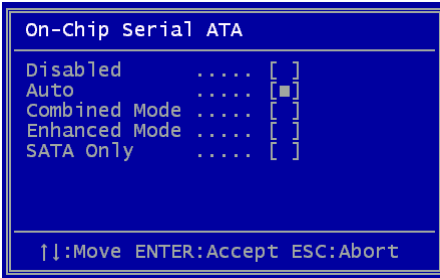
- \*\*\* On-Chip Serial ATA Setting \*\*\*
- On-Chip Serial ATA **Auto**
- x PATA IDE Mode Primary
- SATA Port SATA3,SATA4 Secondary
- \*\*\* On-Chip PATA Setting \*\*\*
- On-Chip Primary PCI IDE Enabled
- On-Chip Secondary PCI IDE Enabled

The 'On-Chip Serial ATA Setting' menu is expanded to show:

- Item Help
- Menu Level ▶
- [Disabled]: Disabled SATA Controller.
- [Auto]: Auto arrange by BIOS.
- [Combined Mode]: PATA and SATA are combined. Max. of 2 IDE drives in each channel.
- [Enhanced Mode]: Enable both SATA and PATA. Max. of 6 IDE drives are supported.
- [SATA Only]: SATA is operating in legacy mode.

At the bottom of the screen, the following navigation instructions are displayed:

↑↓←→: Move Enter: Select +/-/PU/PD=Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help  
F2: Item Help F5: Previous Values F6: Setup Defaults F7: Turbo Defaults



設定値設定から変更する場合は、Enterを押すと選択リストが表示されます。

**Disabled:** ご使用のシステムにインストールされているのが従来のIDEハードディスクのみである場合に選択できます。この項目を無効にすると、POST中のシリアルATAハードディスク検出を行いませんから理論上の起動時間は多少短縮されます。ただし、後ほどシリアルATAハードディスクをインストールした場合には設定を変更するのを忘れなく。

**Auto:** これがマザーボードの工場設定値です。ご使用のシステムが正常に動作している場合は、基本的には変更は不要です。システムは自動的にPATA (IDE)をプライマリーとして認識します。

**Combined Mode:** 従来のIDEハードディスクとシリアルATAハードディスクを同時にインストールしている場合は、このモードを選択できます。このモードでは、IDEハードディスクまたはシリアルATAハードディスクを起動デバイスとして任意に設定できます。ただしここで注意すべきなのは、IDEはシリアルATAとマッピング関係にある点、すなわちこれが1つのIDEチャンネルを占め、残りIDEの1チャンネルだけになることです。PATAモードがプライマリーとして設定されると、SATA3とSATA4がセカンダリーに設定され、PATAモードがセカンダリーに設定されると、SATA1とSATA2がセカンダリーに設定されません。

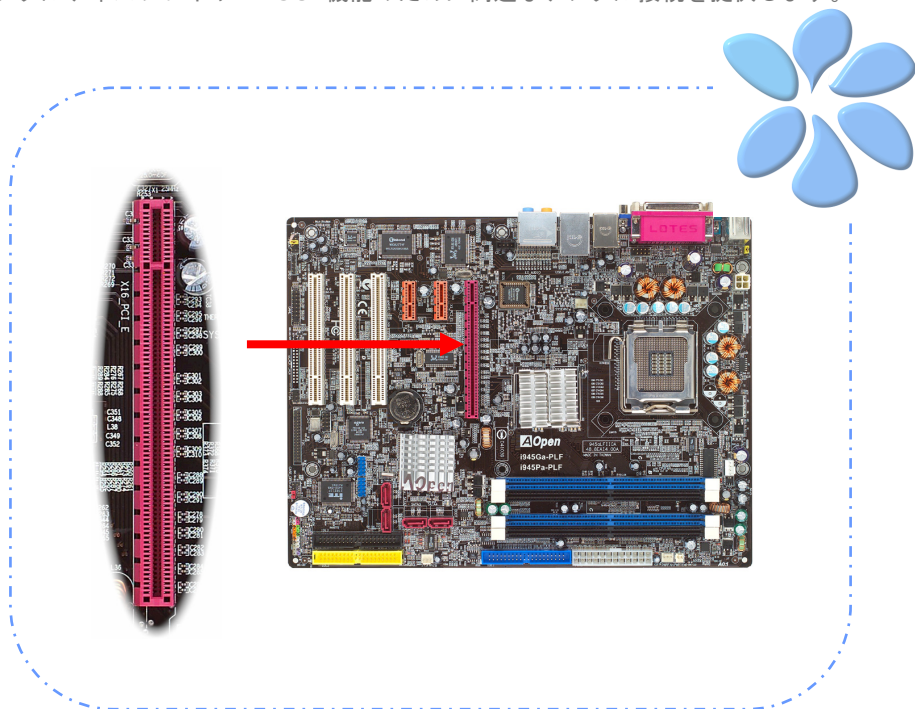
**Enhanced Mode:** 最新のOS(例：Windows XP, Windows.NET Server)をお使いの場合は、Enhanced Modeを選択されるよう強くお勧めします。このモードではシステムは6つのデバイス全て(従来型IDE x 2, シリアルATA x 4)を認識し、正しく機能します。しかし、このモードではPATAモードが設定されることに注意してください。

**メモ:** ラボでの実用実験によれば、Windows2000のOSの元でこのモードに設定されているときには、目立った問題やミスはありませんが、Intelは推奨していません。

**SATA Only:** シリアルATAハードディスクをインストールする場合にのみ、このモードを選択できます。

## PCI Express x 16グラフィックススロットに接続する

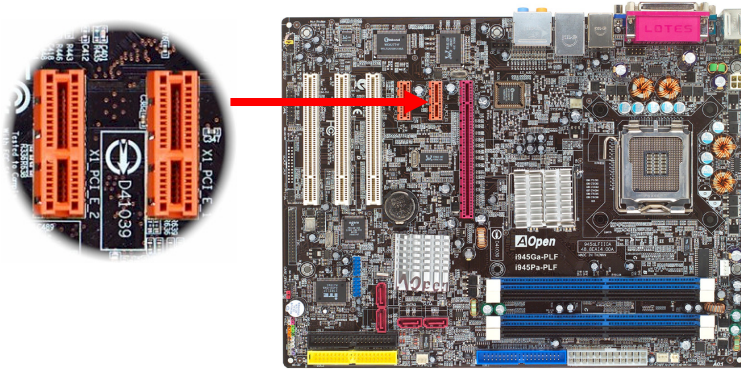
i945Ga-PLF / i945Pa-PLF はPCI Express x 16グラフィックス・スロットを提供します。これはマザーボード上に最新のPCI Express x 16仕様を持つ赤色のスロットです。PCI Express x 16は高品質の3Dグラフィックスをターゲットにしたバス・インターフェイスです。従来は、AGPが8X AGP用の66MHzクロックの最盛期と後退期の両方で使用され、データ転送率は2.1GB/sに達しました。現在PCI Express x 16はさらに早いデータ転送率へと進歩し、8.0GB/s (250MB/s x 16 x 2、各向きに4GB/s)までにアップグレードされました。i945Ga-PLF 用として、PCI Express x 16スロットは自動的にPCI Express x 16グラフィックスや、多重化Intel DVO出力を認識します。これはPCI Express x 16グラフィックスやADD2 (AGP Digital Display 2)カードなど、どのカードが挿入されているかによります。このスロットに装備されているADD2カードと合わせて、多重化Intel DVO出力はデジタルディスプレイやTV-OUT機能のために高速なデジタル接続を提供します。





## PCI Express x 1 スロットに接続する

当マザーボードはPCI Express x 1スロットを2つ提供しています。これはPCI Express x 16と従来のPCIスロットの間に位置します。現状と今後のプロセッサに同調するために、PCI Express x 1はより広域なI/Oバンド幅を提供します。転送データ率は250MB/sを達成しました。これは従来のPCI 2.2 のデータ転送率のほぼ2倍に迫っています。好みに応じてどのようなPCI Express x 1 デバイスでもスロットにインストールできます。



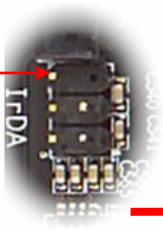
## IrDAに接続する

IrDAコネクタはワイヤレス赤外線モジュールをサポートするように設定できます。このモジュールとLaplink、Windows Direct Cable Connectionのようなアプリケーションを使って、ユーザーはファイルをラップトップ、ノートパソコン、PDA装置やプリンターに転送できます。このコネクタはHPSIR (115.2Kbps, 2 meters)とASK-IR (56Kbps)の両方をサポートしています。

赤外線モジュールをIrDAコネクタにインストールし、BIOS設定のUARTモードから赤外線機能を有効にすると、この機能を使用できます。IrDAモジュールを差し込むときは、正しい向きに差し込んでいることを確認して下さい。

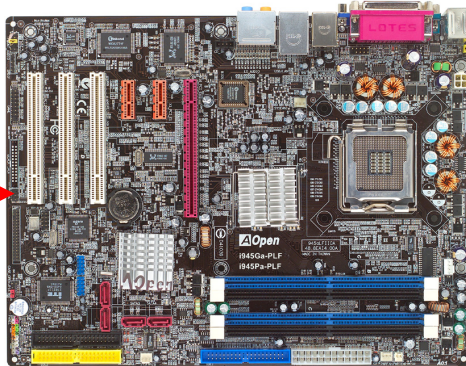


1番ピン



1	●	○	KEY
NC	●	●	GND
+5V	●	●	IR_RX
IR_TX	●	●	

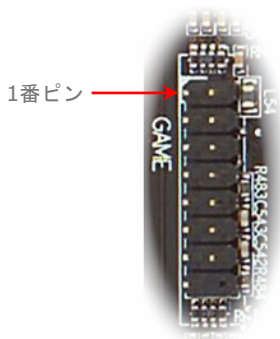
IrDAコネクタ



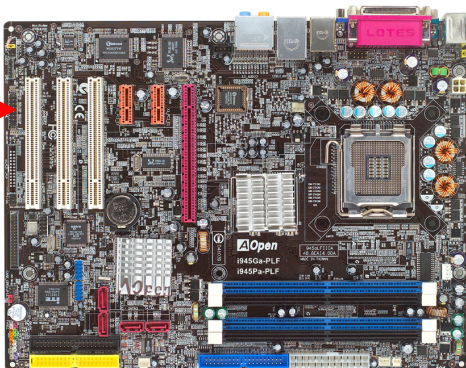


## ゲームポートに接続する

当マザーボードにはゲームポート(Joystick-Midi)が付いており、どのMIDI装置やジョイスティックにも接続できます。この機能を使用するためには、ジョイスティックモジュールが必要で、マザーボードのこのポートにゲームポートを接続します。



1番ピン



	1	2		
+5V	●	●	+5V	
JAB1	●	●	JBB1	
JACX	●	●	JBCX	
GND	●	●	MIDI_TXD	
GND	●	●	JBCY	
JACY	●	●	JBB2	
JAB2	●	●	MIDI_RXD	
+5V	●	○	KEY	
	15	16		

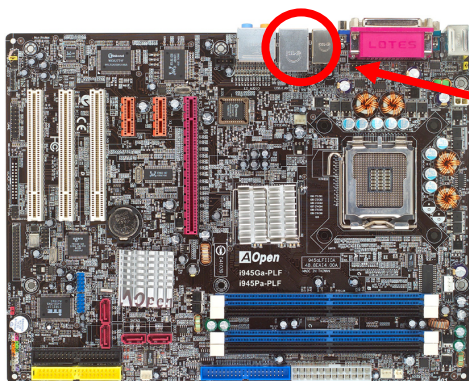
ゲームポートコネクタ



(オプションでユーザーアップグレード)

## Gigabit LANをサポート

ボード上のRealtek Gigabit LAN コントローラーの強度については、当マザーボードはオフィスと家庭の用途のため10/100/1000Mbps Ethernetを提供しています。Ethernet RJ45コネクターはUSBコネクターのトップに位置しています。右側のLEDはリンクモードを示していて、ネットワークとリンクされていると黄色に点灯します。左側のLEDは転送モードを示していて、データが100Mbps (10Mbpsだと点灯しない)で転送されていると緑に点灯します。しかしギガビットモードで転送されているとオレンジに点灯します。この機能をオン・オフにするにはBIOSを通して調整してください。LANの起動機能をオンにするには、BIOSの“Power Management Setup”セクションで“Wake on PCI Card”をオンにセットしなければなりません。



速度 LED (左)  
緑色 100Mbps  
オレンジ色 ギガビットモード



ACT LED (右)  
黄色

## USB2.0に接続する

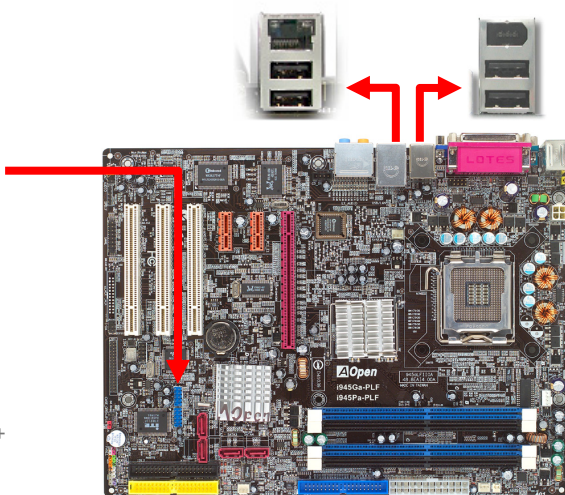
当マザーボードはマウス、キーボード、モデム、プリンターなどのUSB装置に接続できるよう8つのUSB 2.0ポートを備えています。後部パネルにはポートが4つあります。前面USBコネクタをUSBモジュールやケースの前面パネルに接続するために適切なケーブルを使えます。



1番ピン

1番ピン

	1	2					
+5V	●	●	+5V	●	●		
SBD6-	●	●	SBD7-	●	●		
SBD6+	●	●	SBD7+	●	●		
GND	●	●	GND	●	●		
KEY	○	●	NC	●	●		
	9	10					
USBコネクター							

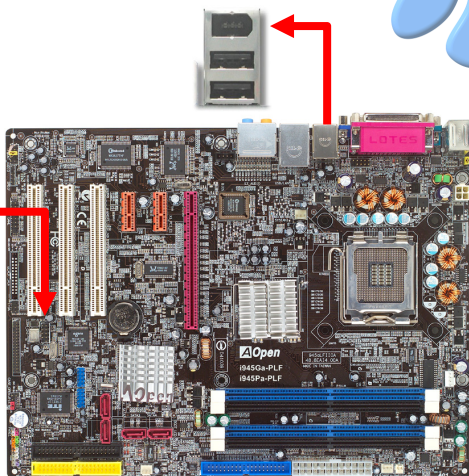
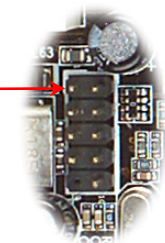


## 1394に接続する

ボード(Agere 1394)上のIEEE1394チップによって、データ転送率が400Mb/s までになり、このインターフェイスは高速のデータ転送パフォーマンスを要求するデジタルカメラ、スキャナーなどの他のIEEE 1394デバイスと接続できます。IEEE 1394デバイスと接続するには適切なケーブルを使用してください。



1番ピン



	1	2		
TPA+	●	●	TPA-	●
GND	●	●	GND	●
TPB+	●	●	TPB-	●
+12V (Fused)	●	●	+12V (Fused)	●
	○	●	SHIED GND	●

IEEE 1394コネクタ

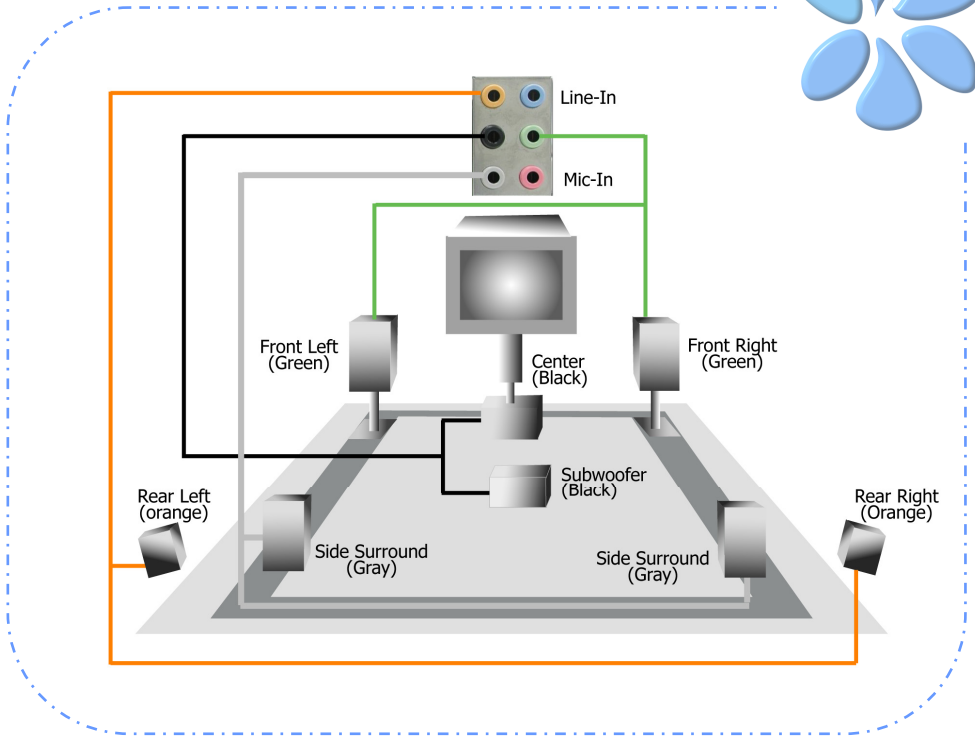


**警告：** IEEE 1394ヘッダーではホットプラグができないことに注意してください。そうしてしまうと制御 IC を焼き付けてしまったり、マザーボードに損傷を与えます。



## スーパー7.1チャンネルオーディオ効果

当マザーボードにはAC'97 (Realtek ALC880) CODEC が付いており、音響効果において高品質で最新の7.1チャンネルをサポートしています。これによって全く新しいオーディオ体験ができるでしょう。本マザーボードは以下に示される7.1チャンネルを提供しています。図は7.1チャンネルサウンドトラックの全てのスピーカーの位置を示しています。前面スピーカーのプラグを緑の"Speaker out (スピーカー出力)"ポートに、後部のサラウンドスピーカーをオレンジのポートに、側面のサラウンドスピーカーを灰色のポートに、中央とサブウーハースピーカーの両方を後部パネルの黒色のポートに接続してください。



## フロントオーディオに接続する

もしケースのフロントパネルにオーディオポートが付いている場合は、このコネクタを通してオンボードオーディオをフロントパネルに接続できます。ケーブルに接続する前に、フロントオーディオコネクタからジャンパーキャップを外してください。もしケースのフロントパネルにオーディオポートがない場合は、黄色のジャンパーキャップを外さないで下さい。

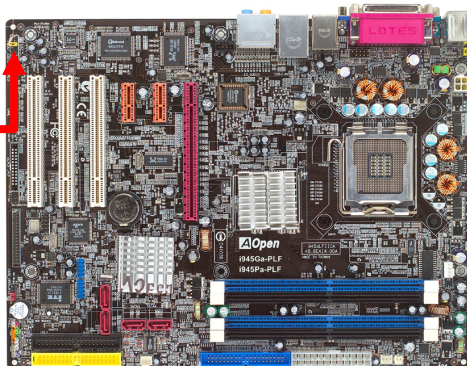


1番ピン



1	●	AUD_GND
AUD_MIC	●	AUD_VCC
AUD MIC BIAS	●	AUD_RET_R
AUD_FPOUT_R	●	KEY
NC	○	AUD_RET_L
AUD_FPOUT_L	●	

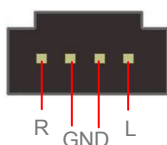
フロントオーディオコネクター



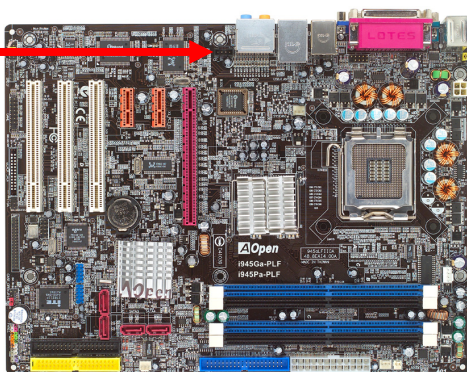


## CD\_INに接続する

このコネクタはCDROMやDVDドライブからオンボードサウンドにCDオーディオケーブルを接続するように設計されています。



AUX-INコネクタ

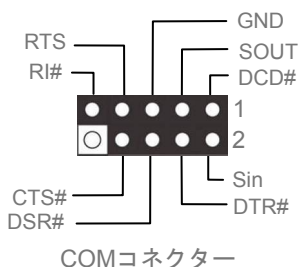
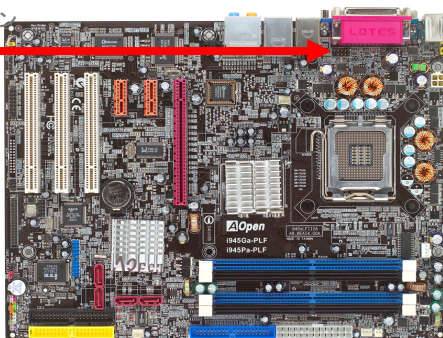


## COM2 (i945Ga-PLF用のみ)に接続する

i945Ga-PLF はシリアルポートを2つ提供しています。一つは後部パネルコネクタにあり、もう一つはCPUソケットの上部にあります。適切なケーブルを使ってケースの後部パネルと接続できます。



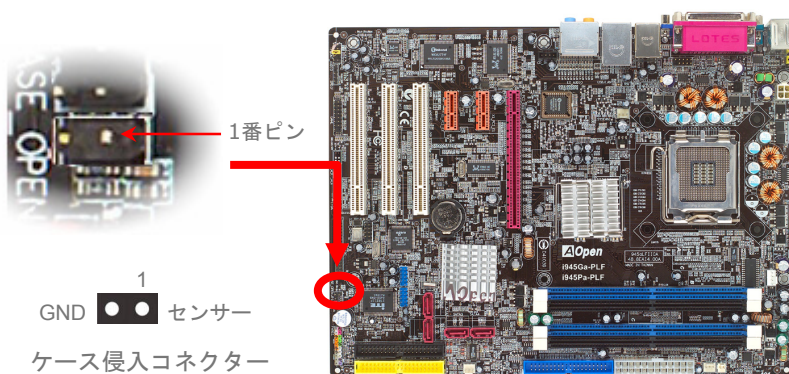
1番ピン





## Case Openに接続する

“CASE OPEN”ヘッダーはケースへの侵入監視機能を提供しています。この機能を実行させるには、システムBIOSの中でそれを有効にし、このヘッダーをケースの中のセンサーに接続しなければなりません。センサーが光や、ケースが開けられて誘発させられると、システムはブープ音で知らせます。この便利な機能は先進のケースのみに適用できることをお知らせします。余分なセンサーを購入し、ケースに接続し、この機能を十分にお使いください。

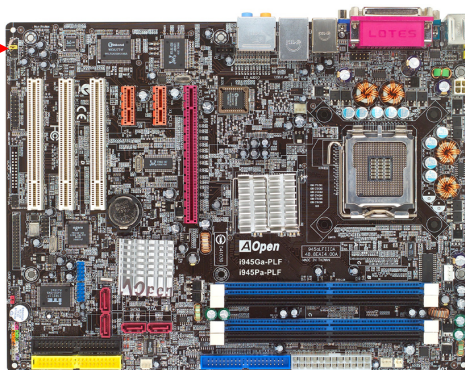


## S/PDIF (Sony/Philips デジタルインターフェイス)を接続する

S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインターフェイス)は最新のオーディオ転送ファイルフォーマットです。これは光ケーブルを通して優れたオーディオ品質を提供し、アナログオーディオの代わりにデジタルオーディオを楽しんで頂くことを可能にしています。特定のオーディオケーブルを通して、S/PDIFコネクタをS/PDIFオーディオモジュールの他方の端に接続できます。これがS/PDIFデジタル出力を担います。通常は以下に示されるように2つのS/PDIF出力があり、一つはRCAコネクタ用、つまり消費されるオーディオ製品に使用される最も一般的なもの、そして他方はより良いオーディオ品質のための光学コネクタ用です。出力のように、RCAあるいは光学オーディオ製品をモジュールのコネクタにインプットしたり、コンピューターから出る音声や音楽をとるために接続することもできます。しかし、この機能を最大限に活用するために、S/PDIFデジタル入力/出力に接続できるよう、S/PDIFデジタル入力/出力を備えた、S/PDIFをサポートするスピーカー/アンプ/デコーダーが必要です。



1 番ピン

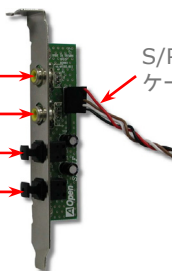


- 1 ● +5V
- KEY
- SPDIF OUT
- GND
- SPDIF IN
- 5

S/PDIFコネクタ

(RCA) S/PDIF 出力  
S/PDIF 入力  
S/PDIF 出力  
S/PDIF 入力 (光学)

S/PDIF ケーブル

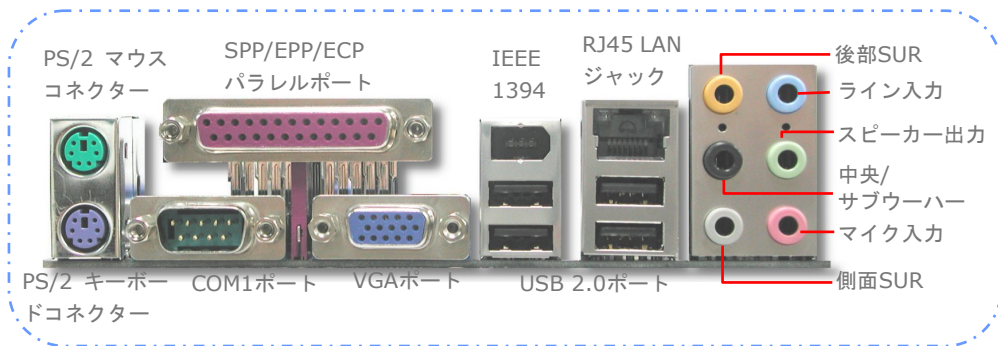


S/PDIF モジュール  
(オプションでユーザーアップグレード)



## 色分けされた後部パネル (i945Ga-PLF用)

オンボードのI/OデバイスにはPS/2キーボード、PS/2マウス、RJ-45 LANコネクター、COM1、VGAポート、USB、IEEE 1394、AC'97サウンドそしてパラレルポートがあります。以下の写真はケースの後部パネルから撮ったものです。



**PS/2 キーボード:**

PS/2プラグを使用する標準的なキーボード

**PS/2 マウス:**

PS/2プラグを使用するPCマウス

**パラレルポート:**

SPP/ECP/EPPプリンターと接続

**COM1 ポート:**

ポインティングデバイス、モデム、他のシリアルデバイスと接続

**RJ-45 LAN ポート:**

家庭用、事務所用Ethernetと接続

**VGA コネクター:**

PCモニターに接続

**USB ポート:**

USBデバイスとの接続用

**IEEE 1394 ポート**

IEEE 1394インターフェイスデバイスとの接続用

**側面 SUR:**

側面サラウンドスピーカー用

**中央/サブウーハー:**

中央、サブウーハースピーカー用

**後部 SUR:**

後部スピーカー用

**スピーカー出力:**

外部スピーカー、イヤフォン、アンプ用

**ライン入力:**

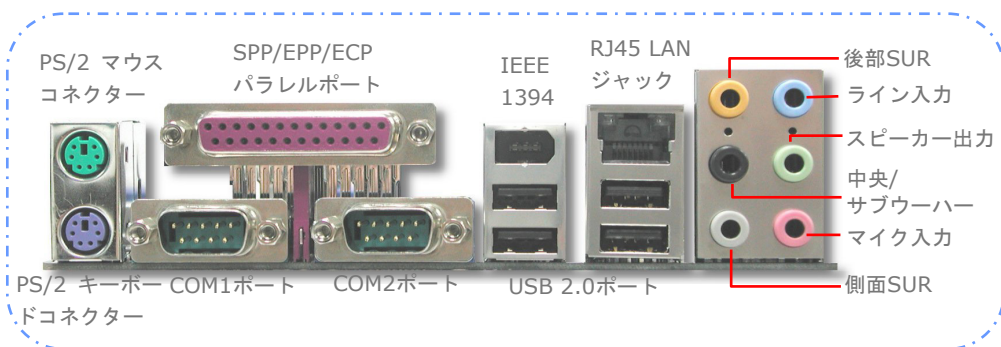
CDやテープなどのシグナルソースから

**マイク入力:**

マイク用

## 色分けされた後部パネル (i945Pa-PLF用)

オンボードのI/OデバイスにはPS/2キーボード、PS/2マウス、RJ-45 LANコネクター、COM1、COM2、USB、IEEE 1394、AC'97サウンドそしてパラレルポートがあります。以下の写真はケースの後部パネルから撮ったものです。



**PS/2 キーボード:**

PS/2プラグを使用する標準的なキーボード

**PS/2 マウス:**

PS/2プラグを使用するPCマウス

**パラレルポート:**

SPP/ECP/EPPプリンターと接続

**COM1 / COM2 ポート:**

ポインティングデバイス、モデム、他のシリアルデバイスと接続

**RJ-45 LANポート:**

家庭用、事務所用Ethernetと接続

**USB ポート:**

USBデバイスとの接続用

**IEEE 1394 ポート**

IEEE 1394インターフェイスデバイスとの接続用

**側面 SUR:**

側面サラウンドスピーカー用

**中央/サブウーハー:**

中央、サブウーハースピーカー用

**後部 SUR:**

後部スピーカー用

**スピーカー出力:**

外部スピーカー、イヤフォン、アンプ用

**ライン入力:**

CDやテープなどのシグナルソースから

**マイク入力:**

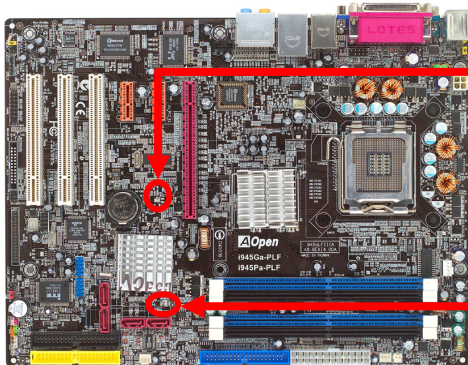
マイク用

## LED表示

LED表示にはスタンバイLEDとブートLEDが含まれており、AOpenはフレンドリーなシステム情報を提供することを目標に設計しました。

**STBY LED (スタンバイLED)** は電源がマザーボードに提供されているときに点灯します。システム電源の状態を確認するために便利な表示です。確認できる状態としては、電源のオン・オフ、スタンバイモードやサスペンドからRAMモードの間のRAM電源状態などがあります。

**BOOT LED (ブートLED)** はシステムがオンの時と、システムがPOST (パワーオン・セルフテスト) の時に点滅します。POSTが全て正常であることを診断しブートが終了した後で、LEDは点灯になります。POSTの間に発生したエラーを警告するときはその後も点滅しています。



STBY LED

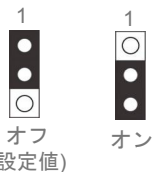
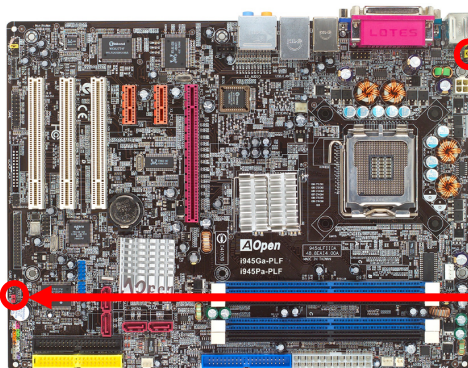


BOOT LED

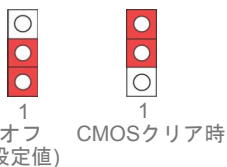
## 3.4 ジャンパー設定

### JP28 キーボード/ マウス ウェイクアップジャンパー

当マザーボードはPS2キーボード / マウス・ウェイクアップ・ジャンパー機能を提供しています。



JP28 PS2 KB/マウス  
ウェイクアップ  
ジャンパー



JP14 データクリアジャンパー

### JP14 データクリア ジャンパー

CMOSをクリアすると、システムを設定値に戻せます。以下の方法でCMOSをクリアします。

1. システムをオフにし、ACコードを抜きます。
2. コネクターPWR3からATX電源ケーブルを外します。
3. JP14の位置を確認し、2-3番ピンを数秒間ショートさせます。
4. JP14を通常動作時の1-2ピン接続に戻します。
5. ATX電源ケーブルをコネクターPWR3に挿します。



## 第4章 特別な機能とユーティリティー

### 4.1 他の便利な機能

研究開発チームの優れた設計能力により、AOpenは下記のような弊社製品に付属する多様で強力、そして手ごろな機能に自信をもっております。そうした機能についてさらに学ぶため、私達のテクニカルウェブサイトを訪問なさってください。

<http://english.aopen.com.tw/tech/techinside>



**1MHz Stepping** CPU



**ATA133**



**IEEE1394**



**EzWin** Flash



**EzInstall**



**DieHard BIOS** Lite



**Dual Channel**



**Gigabit LAN**



**Hyper-Threading**

## 第5章 BIOSを設定する


### 5.1 紹介

システムのパラメーターはBIOS設定メニューに入って調整できます。このメニューではシステムパラメーターを設定したり、128バイトのCMOSエリア（通常はRTCチップかメインチップセットの中）に構成を保存できます。

マザーボードのFlash ROMがインストールされているPhoenix-Award BIOS™は業界標準BIOSのカスタムバージョンです。BIOSはハードディスクドライブ、シリアル、パラレルポートなどの標準的なデバイスのための重要な低層レベルでのサポートを提供しています。

AOpenの研究開発エンジニアリングチームは当マザーボードのほとんどのBIOS設定を最適化しました。しかし、BIOSのデフォルト設定のあるものはチップセットで制御されている部分を微調整できませんでした。そのため、この章では幾つかの設定を調整する手助けをすることを意図しています。

BIOS設定メニューに入るため、画面にPOST（パワーオン・セルフテスト）が表示されると<Del>キーを押してください。

 **メモ**：BIOSコードはマザーボード上で最も頻繁に変更される部分なので、このマニュアルに含まれるBIOS情報はお手元のマザーボードに付属するBIOSバージョンとは異なる場合があります。



## 5.2 Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方

一般的に、選択したい項目は矢印キーを使って強調し、選択のためには<Enter>キーを押します。値を変更するには<Page Up>と<Page Down>キーを使います。Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムを終了するには<Esc>キーを押します。以下の表はPhoenix-Award™ BIOS設定プログラムの中でキーボードの使い方の詳細を示しています。

キー	説明
Page Up か +	設定を次の値に変更するか、値を増やす。
Page Down か -	設定を前の値に変更するか、値を減らす。
Enter	項目を選択する。
Esc	メインメニュー：変更を保存せずに終了。 サブメニュー：現在のメニューからメインメニューへ戻る。
↑	前の項目を強調する。
↓	次の項目を強調する。
←	バーをメニューの左端に移動させる。
→	バーをメニューの右端に移動させる。
F6	CMOSからセットアップ設定値をロードする。
F7	CMOSからターボ設定値をロードする。
F10	変更された設定を保存し、セットアッププログラムを終了する。

## 5.3 BIOS設定への入り方

ジャンパー設定を終え、ケーブルを接続してから、電源を投入しBIOS設定に入ることができます。POST（パワーオン・セルフテスト）の間に<Del>キーを押し、推奨最適パフォーマンスのために"Load Setup Defaults"を選択してください。



Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility

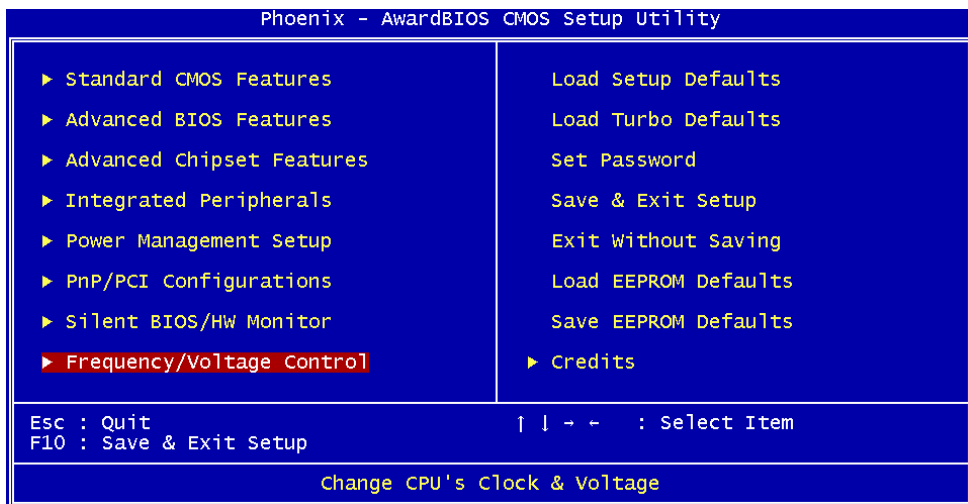
- ▶ Standard CMOS Features
- ▶ Advanced BIOS Features
- ▶ Advanced Chipset Features
- ▶ Integrated Peripherals
- ▶ Power Management Setup
- ▶ PnP/PCI Configurations
- ▶ Silent BIOS/HW Monitor
- ▶ Frequency/Voltage Control
- Load Setup Defaults
- Load Turbo Defaults
- Set Password
- Save & Exit Setup
- Exit Without Saving
- Load EEPROM Defaults
- Save EEPROM Defaults
- ▶ Credits

Esc : Quit  
F10 : Save & Exit Setup  
| ↓ - : Select Item

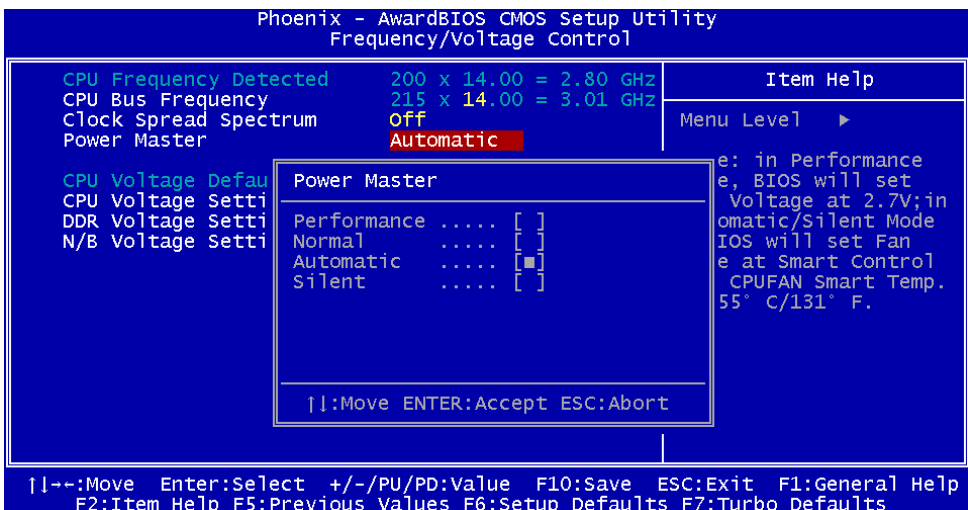
**警告**：ご自分のシステムコンポーネント (CPU, SDRAM, HDD など) がターボ設定に十分であることが確かでない限り、"Load Turbo Defaults" を使用しないでください。

## 5.4 Power Masterの定義

コンピューターを起動させてからDelボタンを押して下さい。次にBIOS設定ページに入ります。BIOS設定ページに入ると、Power Master を設定するためにFrequency/voltage controlを選択して下さい。



BIOS設定を経由して選択する3つのモードがあります。Aopenの新しいマザーボードのデフォルトはAutomaticモードです。



## Automaticモード（自動モード）

このモードをオンにすると、Power Masterが自動的にプロセッサのtrueのロードを検知します。プロセッサのロードが重いときは、Power Masterは要求に合わせてプロセッサのクロックを上げます。他方、プロセッサのロードが低いときは、Power Masterはプロセッサファンからのノイズを減らすためにクロックを下げます。

```
Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
Frequency/Voltage Control

CPU Frequency Detected  200 x 14.00 = 2.80 GHz
CPU Bus Frequency      200 x 14.00 = 2.80 GHz
Clock Spread Spectrum  Off
Power Master           Performance

CPU Voltage Default    Power Master
CPU Voltage Setting    Performance ..... [■]
DDR Voltage Setting    Normal ..... [ ]
N/B Voltage Setting    Automatic ..... [ ]
                       Silent ..... [ ]

Item Help
Menu Level ▶
e: in Performance
e, BIOS will set
Voltage at 2.7V;in
omatic/Silent Mode
IOS will set Fan
e at Smart Control
CPUFAN Smart Temp.
55° C/131° F.

↓↑:Move ENTER:Accept ESC:Abort

↓↑:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F2:Item Help F5:Previous Values F6:Setup Defaults F7:Turbo Defaults
```

## Performanceモード（パフォーマンス・モード）

このモードをオンにすると、Power Masterが自動的にプロセッサのtrueのロードを検知します。このモードでは、プロセッサのパフォーマンスが常に最高になります。プロセッサのロードが重いときは、プロセッサのクロックを上げます。他方、プロセッサは低くなります。

```
Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
Frequency/Voltage Control

CPU Frequency Detected  200 x 14.00 = 2.80 GHz
CPU Bus Frequency      200 x 14.00 = 2.80 GHz
Clock Spread Spectrum  Off
Power Master           Silent

CPU Voltage Default    Power Master
CPU Voltage Setting    Performance ..... [ ]
DDR Voltage Setting    Normal ..... [ ]
N/B Voltage Setting    Automatic ..... [ ]
                       Silent ..... [■]

Item Help
Menu Level ▶
e: in Performance
e, BIOS will set
Voltage at 2.7V;in
omatic/Silent Mode
IOS will set Fan
e at Smart Control
CPUFAN Smart Temp.
55° C/131° F.

↓↑:Move ENTER:Accept ESC:Abort

↓↑:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F2:Item Help F5:Previous Values F6:Setup Defaults F7:Turbo Defaults
```

## Silentモード (サイレント・モード)

このモードをオンにすると、Power Masterが自動的にプロセッサのtrueのロードを検知します。静かな作業環境を提供するために、このモードを選択できます。このモードでは、プロセッサのクロックが遅くなり、プロセッサファンからのノイズが非常に静かになります。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility  
Frequency/Voltage Control

CPU Frequency Detected	200 x 14.00 = 2.80 GHZ	Item Help Menu Level ▶
CPU Bus Frequency	200 x 14.00 = 2.80 GHZ	
Clock Spread Spectrum	Off	
Power Master	Normal	

Power Master

Performance ..... [ ]

Normal ..... [■]

Automatic ..... [ ]

Silent ..... [ ]

||:Move ENTER:Accept ESC:Abort

e: in Performance  
e, BIOS will set  
Voltage at 2.7V; in  
Automatic/Silent Mode  
IOS will set Fan  
e at Smart Control  
CPUFAN Smart Temp.  
55° C/131° F.

|<->:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help  
F2:Item Help F5:Previous Values F6:Setup Defaults F7:Turbo Defaults

## Normalモード (通常モード)

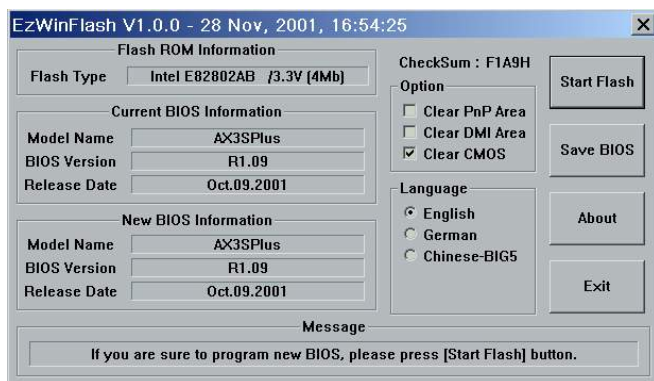
このモードを選択すると、Power Masterがオフになります。プロセッサのクロックは常に元の速度を維持します

## 5.5 Windows環境下でのBIOSアップグレード



AOpenの優れた研究開発能力により、全く新しいBIOSフラッシュウィザード-EzWinFlash-をお届けします。ユーザーの便宜を視野に入れ、EzWinFlashはBIOSバイナリコードとフラッシュモジュールの両方を統合しました。そのためユーザーがすることはウェブからダウンロードしたユーティリティををクリックするだけです。後は自動的にフラッシュのプロセスを完了するのをお手伝いします。EzWinFlashはマザーボードを検知し、BIOSのバージョンを確認し、システムを起こりえる失敗から守ってくれます。さらに、EzWinFlashは皆さんがお使いのどのWindows環境でも機能できるよう考慮されていますので、Windows 95/98、98SE/ME、NT4.0/2000、あるいはWindows XPをお使いでもかまいません。

同時に、一層ユーザーフレンドリーな動作環境を提供するため、AOpenのEzWinFlashはBIOS設定の変更をより容易にできるように多言語機能を持つよう設計されています。



**注意:** システムをアップデートするときにはBIOSフラッシュの失敗というリスクがあります。もしマザーボードが安定して機能しているのであれば、最新のBIOS更新版で修正しなければならないようなバグはありません。その場合はBIOSのアップグレードをされないようお勧めします。アップグレードを計画されているのであれば、起こりうる失敗を回避するために、手元のマザーボードの正確なBIOS更新版を持っていることをお確かめ下さい。

**メモ:** このBIOSの写真にあるモデル名は参照のためだけのものです。お手持ちのマザーボードと同一のモデルではないかもしれません。



以下のステップに従ってEzWinFlashでBIOSアップグレードの手順を完了できます。アップグレードを開始する前に、全てのアプリケーションを閉じておかれるよう強くお勧めします。

最新版のBIOSパッケージのZIPファイルをAOpen公式ウェブサイトからダウンロードしてください。(例：<http://english.aopen.com.tw/>)

ダウンロードしたBIOSパッケージ(例：WSGMAXII102.ZIP)をWindows環境の中で、WinZip (<http://www.winzip.com>) を使って解凍してください。

解凍されたファイルをフォルダーに保存してください。例：WSGMAXII102.EXE, WSGMAXII102.BIN。

WSGMAXII102.EXEをダブルクリックします。するとEzWinFlashはマザーボードのモデル名とBIOSバージョンを検知します。BIOSが違っていれば、フラッシュのステップを続行することはできません。

メインメニューで言語を選択し、次にBIOSアップグレードの手順を開始するために[Start Flash]をクリックします。

EzWinFlashは全てのプロセスを自動的に完了します。ダイアログボックスが表示され、Windowsを再起動するよう促します。Windowsを再起動するために[YES]をクリックしてください。

BIOS設定画面に入るため、POSTの時点で<Del>キーを押します。“Load Setup Defaults”を選択し、次に“Save & Exit Setup”を選択すれば終了です。

フラッシュの過程で電源を切ったり、他のアプリケーションを実行したりしないよう強くお勧めします。



**警告：**新しいBIOSアップグレードはフラッシュしてしまうと元のBIOS設定を恒久的に置き換えてしまいます。システムが通常通りに使用する前にBIOS設定を再構成する必要があります。





## 5.6 Vivid BIOSテクノロジー



# Vivid BIOS

皆さんはPOST画面が古臭く、変わり映えしないしないのに辟易されたことはありませんか？それではPOST画面は堅苦しく、温かみがないという従来の考え方をやめてしましましょう。明るくてカラフルなPOST画面を体験するため、AOpenが新しく開発したVividBIOSをお見せしましょう！

初期のグラフィックPOST画面とは違い（全画面を占領し、POSTの間はテキストの情報で覆われていた）、AOpenのVividBIOSはグラフィックスとテキストを別々に扱い、POSTの間に同時に実行させます。この革新的な設計により、VividBIOSはPOST画面で重要な情報を漏らすことなく、皆さんを美しく、優美な256色画面へとお連れします。

加えて、BIOS ROMのスペースが限られていることも別の大きな問題です。従来のBIOSは全てスペースを消費し、圧縮できないBitmapを表示するだけですが、AOpenはBIOSを次世代に向けてかなり調整し、より小さなGIFフォーマットや動的GIFアニメーションを認識できるようにしました。



Vivid BIOSはOpen JukeBox CD Playerとも基本的な技術を共有しています。同じEzSkinユーティリティを使ってVividBIOS画面を変更したり、お好みのOpen JukeBoxスキンをダウンロードすることもできます。この小さなロゴがマザーボードのダウンロードページ



ジ<http://english.aopen.com.tw/tech/ezskin/vivid.htm>のモデル名の横に表示されていれば、お手持ちのマザーボードがこの革新的な機能をサポートしていることの保証です！

## 第6章 ドライバーをインストールする



ドライバーやユーティリティのインストールはインストールウィザードやステップに従って繰り返し行う作業だとも考えられかもしれません。それでは、EzInstallがいつも“簡単に”やってのけるので驚かれるかもしれません。ウィザードやステップはなく、皆さんにはただ一回クリックして頂くだけです。クリックしたら終わりです。EzInstallはインストールーションを簡単にし、誰でも間違えずにできるようにしてくれます！

CDを入れると、AOpenの“ようこそ”ページと支社情報が出てきます。

まず、必要なドライバーのために左側のインストールドライバーのアイコンをクリックしてください。

次に、お好みのユーティリティのために右側のインストールユーティリティのアイコンをクリックしてください。

実質的にはこれだけです。しかしCDの内容をブラウザしたり、もっと情報を入手するためにReadmeを見たり、CDインストールーションを終了したりできます。

クリックしてオンラインマニュアルをインストール

The screenshot shows the AOpen EzInstall Welcome screen. The main content includes the AOpen logo, a 'Welcome' message, and contact information for various regional offices. Callouts point to different icons on the left side of the screen:

- ドライバー** (Drivers): Points to a CD icon.
- ユーティリティ** (Utilities): Points to a folder icon.
- CDの内容をブラウザ** (Browse CD content): Points to a CD icon.
- Read me**: Points to a document icon.
- Exit CD**: Points to a CD icon.

Additional callouts include:

- AOpenの支社情報** (AOpen branch information): Points to the contact information section.
- インストールマニュアル** (Install manual): Points to a book icon in the top right corner.

**Contact Information:**

Contact us	
<b>AOpen Inc.</b> http://www.aopen.com.tw TEL: +886-2-3789-5888 FAX: +886-2-3789-5899	<b>AOpen Computer GmbH.</b> http://www.aopen.com.de TEL: +49-1805-559191 FAX: +49-2102-157799
<b>AOpen America Inc.</b> http://english.aopen.com.tw TEL: +1-510-489-8928 FAX: +1-510-489-1998	<b>AOpen Japan Inc.</b> http://www.aopen.co.jp TEL: +81-048-290-1800 FAX: +81-048-290-1820
<b>AOpen Computer B.V.</b> http://www.aopen.nl TEL: +31-73-645-9516 FAX: +31-73-645-9604	<b>AOpen International Co., Ltd.</b> http://www.aopen.com.cn TEL: +86-21-6225-8622 FAX: +86-21-6225-7926

## 6.1 ドライバーをインストールする

Installing driver (ドライバーをインストールする) というページから分かるように、EzInstallはマザーボードのために必要なものを拾い上げてくれました。皆さんがすることはただ“GO”をクリックするだけで、その後にステップはありません。リストに挙がっているドライバーの中で、灰色でチェックされているのは必要なドライバーで、皆さんが除外することはできません。赤色のチェックは今回必要でないなら無効にできるものです。



アイコンを押すと“Install Driver”ページが出ます。メインページに戻るために“Back”を押すこともできます。



一度“GO”をクリックするとEzInstall は自動的にインストール手順を実行してから、再起動ダイアログを出します。(ドライバーやユーティリティーの中には再起動の部分をスキップするものもあります。)

**メモ:** Intelチップセットドライバーの制約のため、オーディオドライバーを正しくインストールするためにWindows 2000 はSP 4にアップデートしておく必要があります。

## 6.2 ユーティリティーをインストールする

Installing Utilities（ユーティリティーをインストールする）はドライバーのインストールとほとんど同じです。AOpenはシステムを管理するために、たくさんの使いやすく強力なユーティリティーを提供しています。数多くの素晴らしいユーティリティーが列挙されていることがお分かりになるでしょう。皆さんにはただ“GO”をクリックして頂くだけで、あとは複雑なステップはなしにシステムにユーティリティーがあつという間にインストールされます。



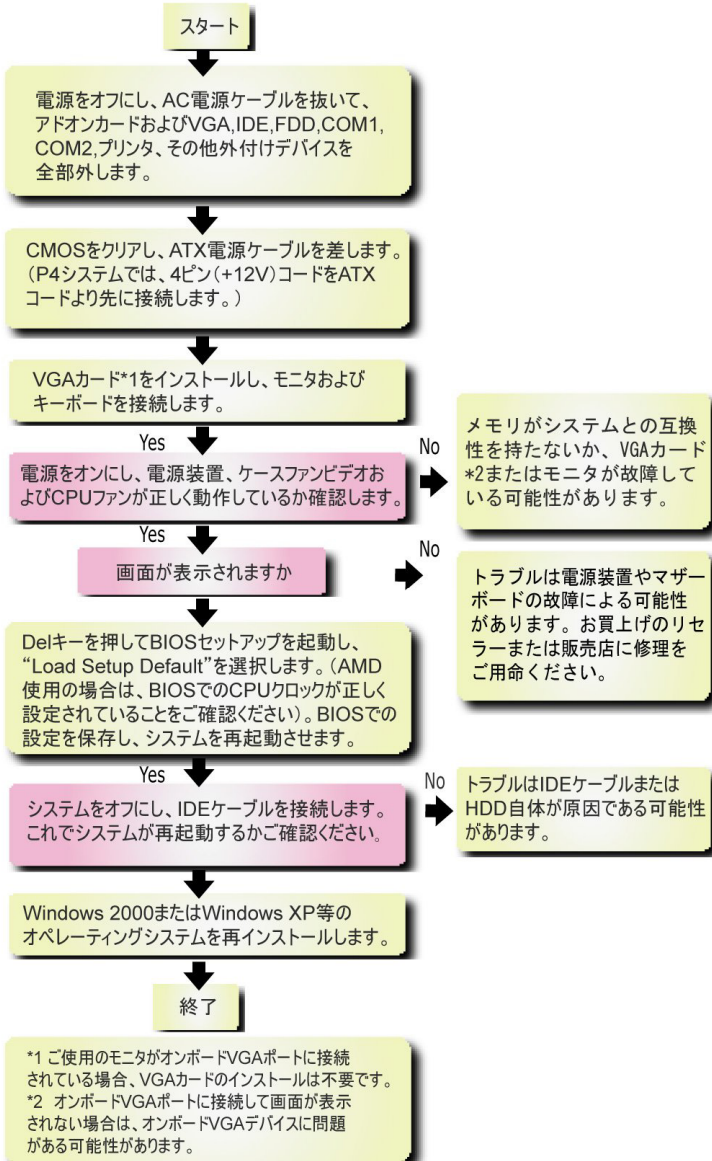
アイコンを押すと選択できるよう“Install Utilities”ページが出ます。メインページに戻るために“Back”を押すこともできます。



## 第7章 トラブルシューティング



# TroubleShooting



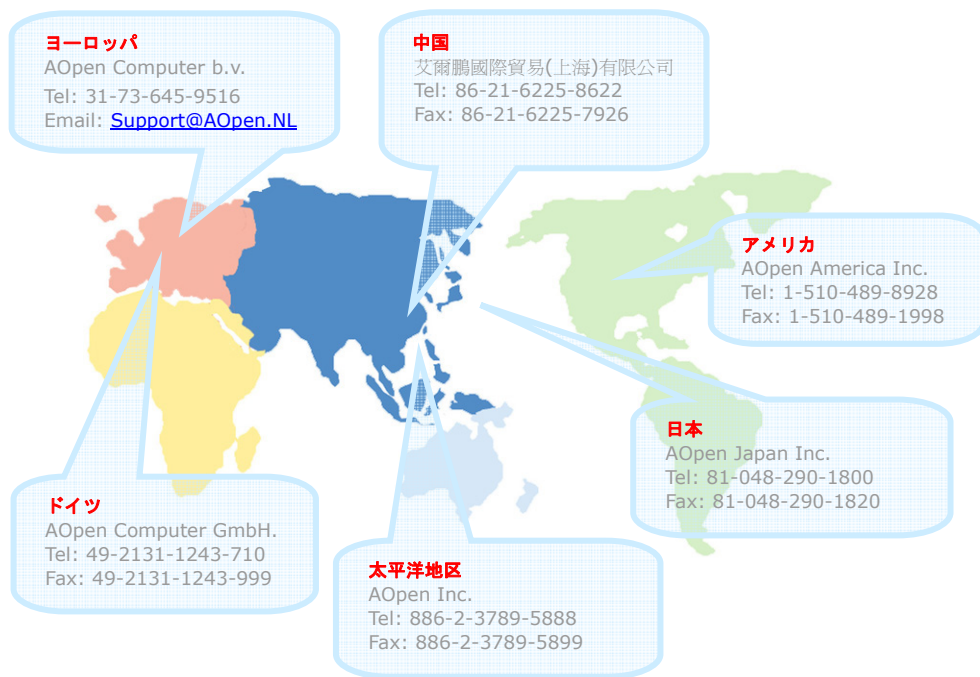
## 第8章 テクニカルサポート

ユーザーの皆様へ

AOpen 製品をお買上げいただき、ありがとうございます。製品を <http://www.aopen.com> で登録されると、Club AOpenのゴールドメンバーとなり、以後の質の高いサービスをご利用いただけます。ユーザーの皆様には質の高いサービスを継続的に提供するため以下の手順をご参考になり、お買上げ地域にある当社の支社からのサポートをお受けください。ユーザー皆様のご協力により、効率的かつ最良のサービスが皆様に引き続きご利用いただけます。

ご理解に感謝いたします。

AOpenテクニカルサポートチーム



ヨーロッパEmail: [Support@AOpen.NL](mailto:Support@AOpen.NL)

太平洋地区: <http://www.aopen.com.tw/tech/default.htm>

中国: <http://www.aopen.com.cn/tech/default.htm>

ドイツ: <http://www.aopencom.de/tech/default.htm>

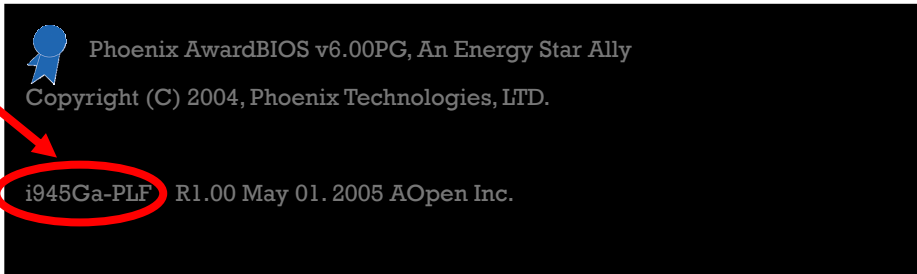
アメリカ: <http://usa.aopen.com/tech/default.htm>

日本: <http://aopen.jp/tech/index.html>



## 型式名とBIOSバージョン

型式名およびBIOSバージョンは最初の起動画面(POST画面)の左上に表示されます。以下が一例です：



i945Ga-PLF はマザーボードの型式名で、R1.00はBIOSバージョンです。

## お買い上げのマザーボードの登録

AOpen製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。お買い上げのマザーボードは <http://club.aopen.com.tw/productreg/> からご登録いただきますと、Club AOpenの会員となり、AOpenからの質の高いサービスが優先的にご利用いただけます。また、スロットマシンゲームに参加してAOpenからの景品獲得もできます。登録の際には下記の情報をご用意ください。 形式名、パーツ番号(P/N)、シリアル番号(S/N) およびお買い上げ日。 パーツ番号およびシリアル番号はバーコードラベルに印刷されています。バーコードはパッケージ外側またはPCBのコンポーネント側に付いています。以下が一例です。



パーツNo.

シリアルNo.

P/N: 91.88110.201はパーツNo, S/N: 91949378KN73はシリアルNo.

Phoenix-Award BIOSエラーメッセージ	
エラー音	メッセージ
1 回短く(・)	システムのブートが正常
1 回長く - 1 回短く(- ・)	DRAMエラー
1 回長く - 2 回短く(- ・ ・)	ディスプレイカードかモニターの接続エラー
1 回長く - 3 回短く(- ・ ・ ・)	キーボードエラー
長いエラーが継続 (- - - -)	DRAMが正しく装着されていない



# Technical Support

オンラインマニュアル：マニュアルをダウンロードするには、まずログインに必要な言語を指定します。“Type”のディレクトリから“Manuals”を選んで、マニュアルデータベースにアクセスします。マニュアルおよびイーザーインストールガイドはAOpenボーナスパックCDにも収録されています。

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

テストレポート：PC組立てには、互換性テストレポートからboard/card/deviceの部分をご覧になることをお勧めします。これで互換性に関するトラブルを解決できるかもしれません。

<http://aopen.jp/tech/report/index.html>

FAQ：ユーザーがよく直面する問題やFAQ（よく尋ねられる質問）が列挙されています。ログインに必要な言語を指定してから問題の解決方法を見てみます。

<http://aopen.jp/tech/faq/index.html>

ソフトウェアのダウンロード：ログインに必要な言語を指定した後、“Type”のディレクトリからアップデートされた最新のBIOSまたはユーティリティ、ドライバをダウンロードしてみます。大半の場合、最近のバージョンのドライバやBIOSにより、ハワや互換性の問題が解決されます。

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

eForum：AOpen eForumは当社製品に関して他のユーザーと討論する場所で、ユーザーの問題が以前に取り上げられたか以後答えを得られる可能性があります。ログインしてから“Multi-language”で必要な言語を指定します。

<http://club.aopen.com.tw/forum/>

当社へのご連絡：ご連絡に先立ち、システム設定の詳細情報およびエラー状況をご確認ください。パーツ番号、シリアル番号、BIOSバージョンも大変参考になります。

販売店、リセラーへのご連絡：当社は製品をリセラーおよびシステム設計会社を通して販売しております。ユーザーのシステム設定に関して熟知しており、お持ちの問題の解決方法または重要な参考情報が提供される可能性があります。